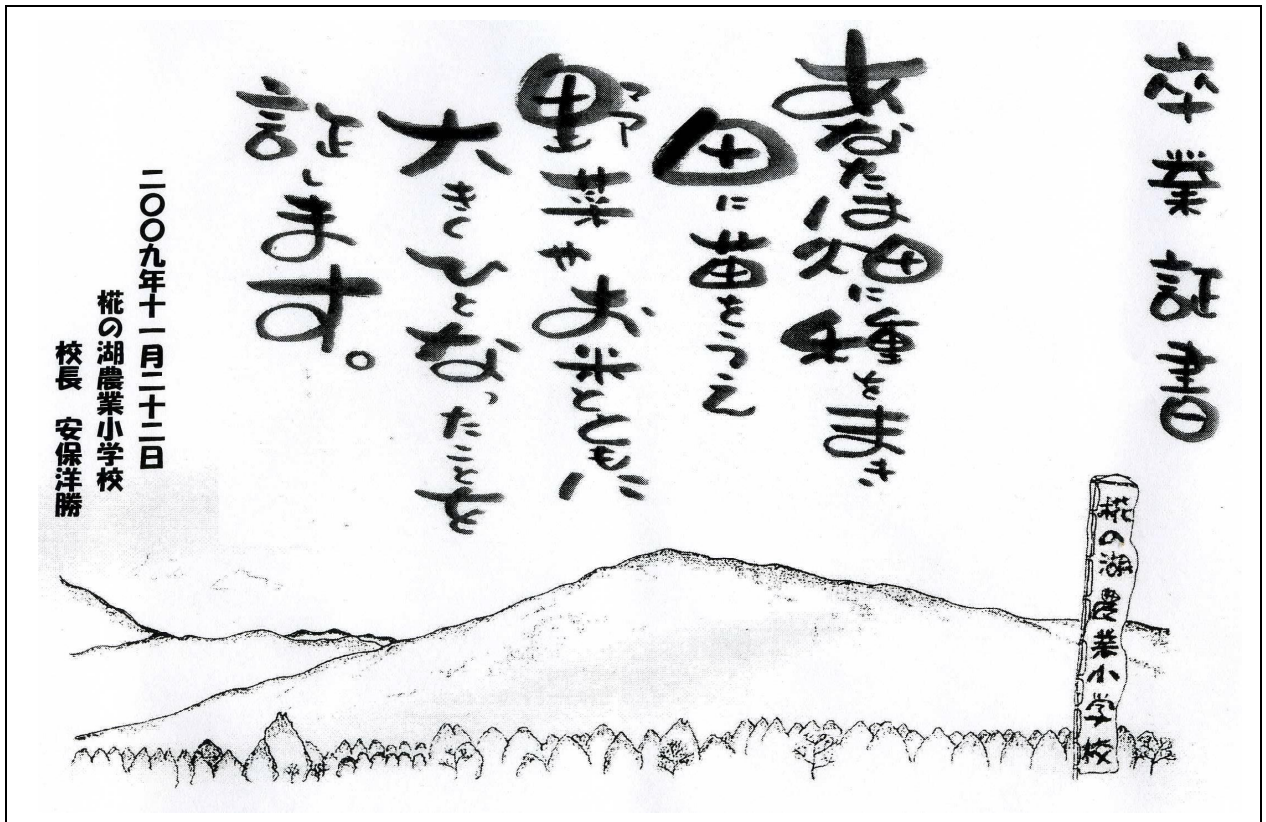


椈の湖農業小学校だより

No.127

どんびま

2009年12月10日発行
発行者 椈の湖農業小学校



課外授業のご案内

☆12月20日(日)

わら細工 注連縄づくり

☆1月10日(日)

和風づくり 凧揚げ

左義長参加

☆2月14日(日)

染物 ハンカチ、タオル、Tシャツ等

からすみ(米粉の蒸し菓子)作り

☆場所 下野いきいき会館(下野庚申堂前)

中津川市下野 1423-7

☆時間 午前9時~午後3時まで

※参加申し込みはスタッフ小林まで。☎0573-72-4835

～とくちゃんの農小レポート～

～おめでとう！卒業試験はごぼう堀り？～

あっと云う間の9か月、早くも卒業式を迎えてしまった。先生・スタッフ共々毎年のように思うことは、全員が無事に卒業してくれた事の喜びである。

1 午前の授業。 今年最後の授業は野菜の収穫で、大根、里芋、かぶ、ごぼう。
何と言っても大変なのはごぼう堀りである。いつの間にか世間では卒業試験と云われており、親子共同で力を合わせて頑張る作業である。

2 昼食。 五平もち、こくしょ、から揚げ、いも餅、ぜんざい、おでん、
サラダ、漬物。
収穫祭と云う事で、盛り沢山の郷土料理が用意され、時間もたっぷり有りましたので、充分堪能出来たことと思います。
今年も五平もち焼きは荒城農小のスタッフの方々が担当して下さいました。

3 作品展。 2年目を迎えた今年は、皆さんから沢山の写真を提供して頂き、新スタッフの加藤さんのレイアウトにより、見応えのある展示で好評でした。また物作り授業の作品も出展されており、見た人達からは来年は自分たちも出展してみようと言う話も聞かれました。

4 卒業式。 午後からは卒業式が行われました。
*校長先生の挨拶 無事に卒業された生徒に対して「おめでとう」のお祝の言葉と、特に遠方より通学された方々には労いの言葉と感謝の気持ちが述べられました。
*卒業証書授与 例年の如く卒業証書は木製で、校長・各Gの先生から生徒に手渡されました。そして今年の収穫米7合と文集などが配られました。

*各種の表彰式

- *皆勤賞。1日も休まず出席した生徒は14名有り、大豆が副賞でした。
- *バケツ稲コンクール。「立派なお百姓になれるで賞」の上位3名にはシクラメンの大鉢が、以下「良く手掛けてあるで賞」「努力賞」「入賞」と30名の生徒にもシクラメンの花が贈られました。
- *案山子コンクール。いずれも力作揃いでしたが、中でも「人気投票」上位は9名。先生スタッフ選考の6名は「特別賞」として、キャベツが賞品に贈られ、努力賞として参加者全員にも賞品が出ました。
- *ジャンボ南瓜目方当て。ニアピンまで含めて十数名に水菜が賞品に。
- *かぶと虫運動会。上位4名に玉ねぎが賞品に贈られました。

*代表挨拶

- *生徒代表 1Gの中島君。4G加藤さんが夫々挨拶に立ち、農小にきて良い思い出が出来て、とても良かったと云う感想がありました。

***保護者代表** 中島さんが代表して、6年間の思い出と共に、子供さんが成長していった過程などを詳しく話され、運営関係者としては大変嬉しいお言葉を頂きました。

***先生代表** 斉藤先生より土を通して学ぶ事の重要性について話され、この学校に通学された皆さんに敬意を表されました。

***贈る言葉** スタッフを代表して農場長の鈴木さんが、皆さんにおめでとう！運営の苦労話をちょっぴりと、そして自分は間違いなく来年も留年！

***来賓挨拶** 来賓を代表して姉妹校の荒城農小の清水さんより、我が椈の湖農小の頑張りに、エールを送って頂きました。

***最後にひと言** 校長先生から、来年も是非参加して頂きたい旨と、お仲間にお声をかけて誘ってほしいとのお願いがありました。

***校旗降納** 6年生全員参加で、お世話になった学校に別れを告げる旗を降ろしました。来年からは中学生として、勉強に部活に頑張ってください。そしてたまには農小を思い出し、遊びに来てください。

***プレゼント** 今年も荒城農小からのお土産のりんごが配られ、又ご父兄の方から富有柿も頂きました。

5持ち帰り。今年最後の持ち帰りは、大根、蕪、葱、里芋、牛蒡。芋餅。

農小の野菜は他に比べて一味違います。それは農薬は全く使わず、化学肥料の代わりに大量の有機肥料を使っているからです。大根は生で食べて頂くととても甘くて瑞々しく、牛蒡は姿に似せず柔らかくてアクもなく牛蒡の香りもあり美味しく食べられます。

～とくちゃんのちょっと一言～

* 椈の湖農小課外授業について

今年も昨年同様12～2月の3ヶ月は、場所を下野の「いきいき会館」に移して行います。冬場でも充分交通の便は良い所です。

12月は注連縄づくり、1月は和風づくり、2月は染物と計画しております。

手作りのみなわで飾るお正月も風情があり、心和むのではないのでしょうか。縄をなう事も覚えましょう。結び方も習いましょう。

一昨年に比べて昨年の風は、100メートルの糸いっぱい延びた物が多くて大変好評でした。オリジナルの風をご持参頂いても結構です。

幸い下野地区には広々した田園があり、安心して揚げる事ができます。

絞り染めの機会はあまり有りませんので、この際勉強してみても？また空き時間を利用しての菓子づくりにも挑戦してみましよう。

参加についてはTEL 0573-72-4835 小林まで

～あぼ兄の百姓ぼなし～

「門松と左義長」

あわただしい大晦日が一夜明けるとお正月、玄關の門松が一層正月気分にしてくれる。その門松を立てる家庭が最近少なくなった。

先日、保育園の先生から門松を世話してほしいとの電話があった。他の事なら引き受けたが、門松だけは返事ができなかった。それは伝統的な行事が引き継がれなくなっているからだ。「園児の父親かお祖父さんをお願いしたら・・・」と付け加えてお断りをした。

かなり前のことになるが、門松を立てるなど禁止された時代があった。緑を守るために、山の木を切ることまかりならぬというのだった。都会ならまだしも、この山間に住んでいながら門松が立てられないで、それに代わる門松の絵の張り紙が2枚ずつ配られた。誤った林業政策が独り歩きをしてしまったのだ。植林された檜や杉を切るだけでなく、松の木の枝と雑木林の中の青木を切るだけなのに。また、里山を知る良い機会なのに。里山は人が手を入れないとかえって荒れてしまうものなのだ。

それと同時に左義長が多くで取りやめになった。左義長はこの地方ではどんど焼きといって、小正月の14か15日に子どもたちが門松や注連飾りを集めて焼く伝統行事だ。書初めを焼いて書道の上達も願った。左義長の火で焼いた餅を食べると年中の病を除けると言い伝えられてきた。

もちろん、途切れることなく続けてきた地区はあったし、その後すぐに復活させた地区は少なくなかった。しかし、今またこの伝統行事は消えつつある。小さな集落では子どもがいなくて中断したままの所もある、多くの地区ではだんだん家々の門松が立てられなくなってしまっていて消えようとしている。

そこで、あぼ兄たちは10数年前から古くて新しい伝統行事として冬の火祭りが復活できないものかと取り組んできた。左義長の高さは15m超。夜空に燃え上がる火柱は正月ならではのひと時を演出する。集まった人々は年賀の挨拶をかわし、酒や暖かい飲み物食べ物が振る舞われる。

左義長に合わせて、人形供養も行ってきた。幼い頃母親の次に大切だったぬいぐるみや、お土産などにいただいた人形など、思いのこもっている物をゴミとして棄てるのは心が痛むものだ。すりきれ汚れたぬいぐるみとお別れするのを嫌がる子どもをなだめながら線香を立てて手を合わせる親子もあって、思い出と別れる光景はジンとくるものがある。

そんなあぼ兄たちの左義長と人形供養は毎年1月の第2日曜日に下野いきいき会館広場で催される。その日にあわせて、農業小学校の課外授業「凧作りと凧揚げ」を同会館内で行うのも恒例となっている。

つい最近までは凧に「物価」と書けばよく揚がると言われた。中高年なら「血圧」と書いてみるか。今年はまずよく揚がる凧を作って「成績」と書けば学校の成績が上がるかも。

冬の行事に多数のご参加をお待ちしています。

付録

第16期の卒業文集に里山について書きました。後日に出た新聞記事のコピーを掲載します。